

塩野義製薬 (4507)

参考銘柄

【ホームページアドレス】 <http://www.shionogi.co.jp>

新社長のもとでグローバル生産・販売体制の構築を加速

1878年創業の製薬メーカー。循環・代謝、感染・免疫、癌・疼痛領域に特化している。2002年より動物薬や薬品卸事業などの非医薬品事業を次々と売却し事業再編を行った。

塩野現社長のもと事業再編や国内販売体制の立て直しに一定のめどがついたことから、グローバルな開発・販売体制の構築を加速させる。グローバル化をより積極化させるために手代木専務執行役員が2008年4月1日付けで新社長に就任する。48歳の新社長は米国勤務後に経営企画部長などを歴任した。IR担当役員としても国内外の投資家に評価されている。

Crestolの好調で08.3期の第3四半期は大幅増益

08.3期の第3四半期（4～12月）は売上高が1,624億円、前年同期比9%増、営業利益が296億2,800万円、同39%増。ロイヤリティ収入の増加と国内販売の回復で大幅増益を達成した。進捗率は売上高が76%、営業利益が74%とほぼ計画線で推移している。

英・アストラゼネカ社からコレステロール低下剤 Crestolのロイヤリティ収入が218億円、同73%増と利益を押し上げた。国内の医療用医薬品の売上高は1,183億円、同2%増。主力の抗生物質のフロモックスやフルマリン、バンコマイシンが伸び悩んだが、Crestolが75億円、同5.4倍、癌疼痛薬オキシコンチンが53億円、同31%増でカバーした。

新薬開発パイプラインが充実、米国での自販に乗り出す

新薬の開発パイプラインはフェーズ1～2と初期段階ではあるが充実してきた。特にアトピー性皮膚炎治療剤 S-77469、抗肥満薬 S-2367、アレルギー性鼻炎薬 S-555739、血小板減少治療薬 S-888711、抗 HIV 治療薬の候補3化合物が注目される。スケジュールは早期に5品目を臨床後期に移行し、13.3期までに最低2品目の販売を開始する。開発への道りは険しいが、どれも市場規模の大きな製品で今後の進捗度合いに注目が集まる。

新薬の販売と同時期の13.3期に米国への自販に乗り出すことを発表した。グローバルでの持続的な成長戦略として評価できよう。09.3期は業界平均5.2%の薬価引き下げが実施され他の製薬メーカーが微増益にとどまる中、Crestolのロイヤリティの料率上昇などで2けたの増益とセクター内での注目度は高い。

(柿崎)

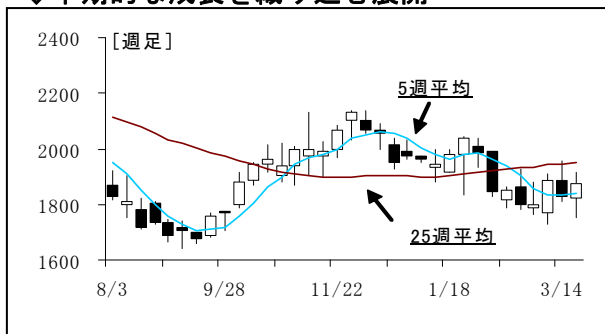
◇09.3期は Crestolの販売増で高い成長を持続する見込み

[業績推移] (連結)

単位：億円、円、()は伸び率%

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
07.3	1,998 (2)	289 (▲1)	281 (▲5)	186 (▲18)	54.6	16.00
08.3予	2,150 (8)	400 (38)	400 (42)	240 (29)	68.4	20.00
09.3予	2,300 (7)	500 (25)	500 (25)	300 (25)	85.4	20.00

◇中期的な成長を織り込む展開



[主要株価指標] (売買単位：1,000株)

株価 (2008/3/25)	1,844	円
昨年来高値 (高値日)	2,385	円 (07/4/27)
同安値 (安値日)	1,641	円 (07/9/6)
予想PER	27.0	倍
1株株主資本	1,014	円
PBR	1.82	倍
予想配当利回り (年20円で)	1.08	%
ROE	5.5	%
発行済み株式数	35,113	万株